

令和7年度第2回島田市文化芸術推進協議会 議事概要

1 日時 令和8年2月10日（火） 午後1時00分～午後2時20分

2 場所 島田市役所 304会議室

3 出席者

(1) 委員 松本委員、森澤委員、岡村委員、片川委員、榛葉委員、高橋委員、沼田委員、松永委員

(2) 事務局 文化振興課 野村課長、石間課長補佐、大野主事

(3) 傍聴者 0名

4 概要

(1) 開会

(2) あいさつ

(3) 議事

ア 第2期島田市文化芸術推進計画骨子案について

委員からの質問・意見は以下のとおり。

【第2期計画の骨子案について】

委員：アンケート調査の状況はどうか

事務局：2月下旬までに無作為抽出した3,000世帯を対象に調査票を配布予定である。回答期限は3月20日まで。

委員：めざす姿「文化芸術が特色として語られるまち」とはどのような意味か。「語られる」という文言に縛られる気がするのでくだった表現にするべきではないか

委員：島田市は合併してちょうど20年になる。島田地区、金谷地区、川根地区それぞれ地域の特色があるため、それぞれに繋がるような文言ではどうか

委員：前回の計画から新しい動きはあったか、委員の皆様に伺いたい。

委員：市民から文化ホールが使いにくいという意見があり、市民に使われるような施設になるといいと思っていた、今回の計画で施設の部分が少し触れられるということは嬉しい。

委員：新築してシステムを一新する方法もあるし、指定管理業者を変更して使いやすくする方法もある。

- 委員：市民は大井川をすべての中心に生活している。大井川に対する思いが根底にあり、その上に文化芸術が存在する。大井川があったから生まれた文化や年中行事が多い。これらを盛り込んでいきたい。
- 委員：大井川といっても地理学として好きというわけではなく、文化あるいは地ビール地酒を含めて大井川こそが島田の売りだと思う。大井川の話は絶対に必要である。
- 委員：施設についての記述を含めるかどうかは、地域の将来人口や人口動態など分析した根拠がないと議論できない。
第3節第1期計画策定後の動きのところで、国の「第2期文化芸術推進基本計画」と記載されているが補助などあるのか。何をするにもお金は必要である。
- 事務局：特に補助はない。
- 委員：国の計画があるからといっても、同じ方針にする必要はなく、市独自の施策を展開していくべきである。それが地域計画である。
- 委員：大井川を柱に施策を展開すべきである。
- 委員：経済に繋げる記述を入れてもいいが、「誇り形成」や「暮らしやすい」、「子育てしやすい」などを軸にする必要がある。
- 委員：めざす姿「語られるまち」というのがしっくりこない。語るのはだれか。
- 事務局：市外を含めた市民の方々である。
- 委員：市役所の建て替えを議論する時に、当時島田の人口規模、財政規模で新しいホールを建設することは厳しいのではないかと思った。施設の更新よりも現場の専門性や人材の育成が重要であると思った。県内には専門の大学もある。劇場のあるべき姿を学ぶ機会があるのに活用しないのはもったいない。市外に住んでいる人からすると街道とか魅力的な場所がたくさんある。歴史のある地域であるので、地元の人は当たり前かもしれないが、旧東海道などすごく魅力的である。
- 委員：第1期計画の策定時に、目指す姿などきれいな形でまとまっていた。2期計画でも基本理念等について変更ないのかと考えていた。第1期計画を策定した時と現在では実施している事業が変わってきているため、そのあたりを変えていくものだと思う。
- 事務局：策定途中であるので、委員の皆様の意見をお聞きして修正していく。
- 委員：観光協会や観光ボランティアのことも付け加えるべきである。
- 委員：骨子案について、期限を定めて委員に意見を求め、意見を集約して

はどうか。

事務局：今回の案はあくまでたたき台としてお示ししたものである。委員の方からのご意見を踏まえ修正していく。

閉会后、「大井川創生譚 UNMANNED 無人駅の芸術祭の先へ」を視察